

年度当初学校訪問

年度当初の学校の状況を把握するため、4月から5月にかけて、本地区内全域（日置市，いちき串木野市，三島村，十島村）の小・中学校を訪問させていただきました。

今回の訪問で、子供たちの夢や希望を実現するために、各学校のそれぞれの特色を生かして、確かな学力の定着やチーム学校による生徒指導の充実、たくましい体を育むための教育活動が展開されていることを感じることができました。

本地区の全ての子供たちが、地域に誇りを持ち多彩な個性と能力を発揮できるよう、各学校におけるグランドデザインの具現化を期待する年度当初の学校訪問でした。



〔いちき串木野市立羽島中学校〕

「学びの組織活性化」推進プロジェクト

各学校の組織的かつ総合的な学力向上に向けた取組の充実や「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を充実させるために「『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラム」が2年目を迎えました。その学力向上プログラムの重要な柱の一つとして、学校の「学びの組織活性化」推進プロジェクトが位置づけられています。本プロジェクトでは、教育事務所単位の実践校，市村単位のモデル校として小・中学校を指定し、校内研修を通して、学校の学力向上推進体制の整備を図ったり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した研究授業・授業研究を行ったりしています。

今年度は、実践校として日置市立東市来中学校，いちき串木野市立串木野小学校，モデル校として日置市立伊集院北中学校，いちき串木野市立市来中学校，三島村立竹島中学校，十島村立宝島中学校を指定し、研究を深めているところです。



〔テレビ会議を使った研修支援の様子〕

コアティーチャー ネットワークプロジェクト部会

今年度も「『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラム」に基づき、コアティーチャーネットワークプロジェクト部会を開催します。この会は、地区内の先生方と管内指導主事でチームを設置し、モデル授業の構築等に取り組むことで、より質の高い指導力を身に付けることをねらいとしています。今年度は、管内の小学校14人，中学校17人の先生方を委嘱し、国語，算数・数学，外国語活動・外国語科のモデル授業づくりに取り組んでいきます。秋には、オープンサポートで公開しますので、是非御出席ください。



〔昨年度の部会の様子〕

フレッシュ研修(初任教員研修)

本年度、日置地区には、小学校に6人，中学校に1人，計7人が新規採用教員として赴任しています。6月7日(金)には、串木野小学校と串木野中学校を会場に教科指導の研究授業研修を実施しました。先輩教員による授業の参観や初任者代表の研究授業及び授業研究等を通して、新任教員としての資質向上を図り、実践意欲を高めました。

今後は、7月に県立南薩少年自然の家で宿泊研修，10月に伊集院北小学校で道徳の研究授業研修，1月に湯田小学校で特別活動の研究授業研修を実施する予定です。



〔研究授業(体育)の様子〕

鹿児島地区 Mom!学級づくり連続講座

本年度、本地区において年間7回実施する連続講座の第1回講座を5月16日(木)、東市来文化交流センターで、日置地区内小・中学校の教職員21人を対象に実施しました。「Mom」とは「M:見つめる」「o:思いをめぐらす」「m:向き合う」という教師が子どもに寄り添う姿勢を意味しています。

講座では、このMomのサイクルにより、人権教育をと子ども同士が支え合う人間関係の構築を図ったり、子どもと教師が確かな信頼関係で向き合ったりするなど、教育活動の基盤となる学級づくりについて、深く追究し、実践力を備えた教員を育成することをねらいとしています。講座生らは、お互いに日頃の学級づくりの悩みや難しさ、楽しさなどを語り合いながら、真剣に講座に取り組みました。

学んだことを各自持ち帰り、学級づくりに生かされることを期待しています。



【講義の様子】

日置地区小・中学校道徳教育研修会

6月26日(水)、日置市立日吉小学校、日吉中学校において、日置地区小・中学校道徳教育研修会を開催しました(教職員参加者92人)。

「特別の教科 道徳」が、小学校では昨年度から、中学校では今年度から完全実施となりました。両校とも特定の価値を押し付けるのではなく、子供一人一人が考え、議論することで多様な考え方や感じ方に接し、よりよい生き方を試行していく道徳科の授業が展開されており、大変有意義な研修会となりました。

今後も各学校において道徳教育の充実をお願いします。



【研究協議の様子】

日置地区PTA正副会長等研修会 (兼 鹿児島地区ブロック別人権教育研修会)

7月6日(土)、日置市中央公民館において、地区内の小中学校・高校・特別支援学校PTA正副会長等役員の方々や教職員計135名の参加の中、本年度は人権教育研修会が開催されました。

講師の宮内礼治さん(宮丸太鼓店店主・部落解放同盟鹿児島県連合会書記次長)は、「誇りをもって生きる」を演題に、太鼓つくりの実演をしながら、部落差別や職業差別について、自らの生い立ちをとおして感じ考えたことを話されました。

この研修で高まった人権課題への意識が各PTAの学習に拡がり、多くの方の人権意識の高揚につながることを期待します。



【講演の様子】

スクールガード・防犯ボランティア等研修会

5月25日(土)、いちきアクアホールにおいて、スクールガード・防犯ボランティア等研修会が開催されました。スクールガードリーダーや学校の教職員、保護者等、60人を越える参加者があり、いちき串木野警察署やALSOKの方々を講師として、講義や実技を通じた研修に熱心に取り組みました。

本研修会で学んだことをそれぞれの立場で生かし、学校・家庭・地域の更なる連携の下、子供たちの安全確保が図られることを願います。



【実技研修の様子】

この課題解決に向けて、同学年の仲間に対策を練った。そして、打撃練習時に水道のあるクラブハウス近くは交代で行ったり、守備練習時に外野の隅に水の入ったボールを隠しておいたりするなど、様々な対策を立てた。練習中、水のある方向に打球が飛ぶと、故意にボールを後逸し、ボールを探すふりをしながら隠れて水を飲むのだ。先輩に見つかってしまってもあったが、慣れてくると、ボールの飛んだ方向と先輩たちの状況を瞬時に判断し、ボールを後逸して水分を「捕球」する技術が上達していったように思う。

時代は変わり、現在は甲子園でも給水タイムが設けられるなど、熱中症予防については多くの対策が取られている。少年団や部活動などでは野球に打ち込む子どもたちには、適度な水分を補給しながら、白球を捕球する技術を高めてほら

涼風

水分補球

鹿児島教育事務所所長 徳留敏郎

夏が来た。私にとって夏と言えば野球である。とはいっても、思い浮かべるのは炎天下の野球場で感動的なプレーを繰り広げる球児たちのことではなく、私の中学・高校時代の部活動のことである。

当時は、「練習中に水分は摂ってはいけない。」とされていた時代であった。下級生の頃は先輩の目が厳しく、水を飲んでいようと見つかると、練習後に厳しいしごきが待っていた。それでも、夏場の練習中には水を飲みたい。それゆえ、日々の練習における不変の課題は、「水分を如何に要領よく補給するか。」であった。